

003 健康経営 取り組み事例

企業
プロフィール

OMRON オムロンヘルスケア株式会社

業種 16 電気機器

従業員数 国内698名 グループ3,102名 合計3,800名(2022年年度末)

01 目的

世界中に健康を届ける企業として、我々自身が心身ともに健康で元気でいきいきと働くことができる企業であることを目的に「オムロングループ健康宣言」に基づき健康経営の実践に取り組んでいる。また、自らの取り組みを通じて得た知見を活かし、社会全体における健康経営の実践に貢献していくことを目指している。

02 課題・目標

健康経営で解決したい経営上の課題

課題	④ 企業の社会的責任
健康経営で解決したい経営上の課題	当社は長期ビジョンとして「Going for ZERO 予防医療で世界を健康に」を掲げ「健康寿命の延伸」という社会的課題の解決を目指している。従業員は一人ひとりがその一翼を担い健康で過ごやかな生活を実践。その結果が「自律的生活習慣行動定着」「健康リスク低下」「心理的安全性向上」「ワークエンゲージメント」「多様な働き方選択」等に結びつき予防医療という新たな健康文化の創造、社会の健康につなげていく。
健康経営の実施により期待する効果	一人ひとりがまた、会社全体で健康経営に取り組むプロセスを通じて、従業員の「パフォーマンス」や「エンゲージメント」の向上、「チャレンジ風土の醸成」を期待し中長期的な視点で進捗を毎年で確認する。 同時に健康を願う当社製品・サービスを愛用してくださるお客様の気持ちや行動を体感し開発や販売に活かし、長期ビジョン実現を目指していく。

自社従業員（組織）の課題と目標

重点課題1 ⑬ 生活習慣病等の疾病リスクを持つ従業員への重症化予防の課題

課題内容	脳・心血管疾患の発症を抑制する／当社は、高血圧に起因する脳・心血管疾患(イベント)の発症ゼロを目指す「ゼロイベント」を事業ビジョンに掲げている。家庭での血圧測定を習慣化し、血圧適正化のために、生活習慣の見直しと行動変容を実践することで、全員が血圧の適正化を目指すことにチャレンジする。また、20年度以降、コロナ禍により就労環境が一変。在宅勤務導入による通勤頻度の減少や外出控えて運動不足が顕在化した。その一端として運動施策の柱であるウォーキング企画「オムゼロウォーク」開催月の平均歩数が下がった。2019年度7,410歩→2020年度 5,692歩																
目標	測定推進月間における血圧測定者率(約600名) *測定自律化に向けアンバサダー(主に部門長)の働きかけをやめたため、測定率は低下(想定内)																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>数値</th> <th>単位</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取組前実績値</td> <td>90</td> <td>%</td> <td>2019年度</td> </tr> <tr> <td>現在の実績値</td> <td>60.6</td> <td>%</td> <td>2023年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>—</td> <td>%</td> <td>2023年度</td> </tr> </tbody> </table>		数値	単位	年度	取組前実績値	90	%	2019年度	現在の実績値	60.6	%	2023年度	目標値	—	%	2023年度
	数値	単位	年度														
取組前実績値	90	%	2019年度														
現在の実績値	60.6	%	2023年度														
目標値	—	%	2023年度														

重点課題2 ⑩ 生活習慣改善(運動・睡眠・食生活等)に関する従業員の課題

課題内容	当社は脳心血管疾患イベントゼロ、呼吸器疾患増悪ゼロを事業ビジョンに掲げている。それを実現する従業員は自らが健康維持改善に向けて努力している心と姿勢がとて大切であり、会社として各種取組み・支援を行っている。疾病の原因であることが明らかな喫煙については環境整備と共に従業員の主体的な行動変容を促し、段階を経ながら2024年度末喫煙率ゼロを目指す。																
目標	喫煙率 ゼロ																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>数値</th> <th>単位</th> <th>年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>取組前実績値</td> <td>17.9</td> <td>%</td> <td>2017年度</td> </tr> <tr> <td>現在の実績値</td> <td>5.1</td> <td>%</td> <td>2023年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>5</td> <td>%</td> <td>2023年度</td> </tr> </tbody> </table>		数値	単位	年度	取組前実績値	17.9	%	2017年度	現在の実績値	5.1	%	2023年度	目標値	5	%	2023年度
	数値	単位	年度														
取組前実績値	17.9	%	2017年度														
現在の実績値	5.1	%	2023年度														
目標値	5	%	2023年度														

04 健康経営の成果

経営上の課題に対する健康経営の成果

世界中に健康を届ける企業として、ここで働けば自然とリテラシーと健康習慣が身に付き、我々自身が心身ともに健康で元気でいきいきと働くことができるWell-beingな会社を目指している。また自ら得た知見を活かした健康施策を開発し、共感、実践頂く仲間が増えることで、健康経営の実践を進め、社会的責任を果たすことができると考える。

03 施策・実績

健康経営の取り組み

施策内容(重点課題1)

歩数、血圧、体重を測定する全員参加型のコーポレートウェルネスサービス

具体的な実践内容1

分類	自社サービス
名称	健康経営支援サービス karado! https://www.healthcare.omron.co.jp/sp/karado/ 「オムロン ゼロイベントチャレンジ」 https://www.healthcare.omron.co.jp/zeroevents/about/report01.html
内容	コーポレートウェルネスサービス
導入時期	2017年度～(外販は2021年度から)
評価(定量・定性)	<ul style="list-style-type: none"> 20年度 血圧測定推進週間における測定実施者率:100% 達成。また152人のかくれ高血圧リスク者(135/85mmHg以上)を発見。 →https://www.healthcare.omron.co.jp/corp/health-and-productivity.html ※かくれ高血圧:定期健診では基準値以下だったが、家庭血圧の平均値では基準値を超えた人 社員全員が家庭での血圧測定を習慣化し、自分の血圧レベルを知り、生活習慣の見直しと行動変容をおこなうことで、全員が血圧の適正化を目指すことにチャレンジしている。

具体的な実践内容2

分類	自社サービス
名称	特定保健指導(血圧計、歩数計、体重計、専用アプリ)管理画面(ダッシュボード) https://www.healthcare.omron.co.jp/corp/news/2019/0408.html https://www.healthcare.omron.co.jp/sp/health_guidance/
内容	特定保健指導
導入時期	2020年度～
評価(定量・定性)	<ul style="list-style-type: none"> 血圧、歩数、体重の日々の測定データをスマホと専用アプリを用いて管理する、測定習慣の定着にフォーカスしたパーソナライズした特定保健指導。積極的支援対象者減少。(18年度10%減) 健診時だけでなく、健康機器からスマホを介し得られる自己申告ではない“測定データ”を元に管理栄養士が指導を行う。鮮度の高い情報により感度の高い指導ができ、「測定習慣」が身につく、カラダの数値が変化したことを実感し行動変容を実践できる。

データ活用事例

事例名	上記活用しているサービス①②に記載済み
内容	同上
利用データ	健康診断、問診、ライフログ(歩数、食事、体重)
利用者(ユースケース類型)	ユースケース1, 2, 3の複合

取り組みにおける課題や困っていること

実施している施策の課題	健康施策の取組に必要な個人のデータの統合管理について。会社は、健康情報、就業上の情報、家族情報といった多岐に亘るデータを保有しており、匿名化しても、人物像が浮き出てくる為、プライバシーが担保しにくい。現行以上のデータを組み合わせた分析やサービス開発、データの統合管理は慎重にすすめている。
今後取り組みたい施策の課題	今後、施策への参加の任意性の担保、SNSを介した「レピュテーション・リスク」を想定しておく必要があると考える。

施策内容(重点課題2)

卒煙セミナーの実施、ポスター・メルマガの掲示・配信 保健師がOne to Oneでサポート

具体的な実践内容1

分類	自社組織
名称	—
内容	—
導入時期	—
評価(定量・定性)	<ul style="list-style-type: none"> 【17年度 17.9%】【18年度 16.3%】【19年度 12.9%】【20年度 10.4%】【21年度 8.9%】【22年度 6.4%】【23年度 5.1%】 卒煙支援としてチーム制卒煙チャレンジの実施。(宣言⇒サポート⇒達成時インセンティブ)